

申し込み続々、 ニーズ汲み取り脚光

LIFE VIDEO 株式会社 代表取締役社長

土屋敏男さん

Toshio Tsuchiya



どの人生もドラマチック

LIFE VIDEO社は、自分の会社や家族に残したい思いなどをドキュメンタリー作品にし、高品質のDVD映像で届けようと、土屋さんが2年前に立ち上げた。「2011年に亡くなった義父の葬儀に出席した際、知られざる義父の人間的魅力を多くの出席者から聞かされ衝撃を受けました。その話を生前に聞きたかったと思ったのが会社設立のきっかけです」。

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

土屋さんは、視聴率30%をたたき出した伝説の番組「電波少年」など数々の人気バラエティ番組を手掛けた日本テレビの看板プロデューサーとして知られる。現在も日本テレビ編成局専門局長の肩書を持つ。

1作品当たり3時間から9時間、本人インタビューし、30分〜45分程度にまとめる。「依頼者はものすごいお手持ちの方だったり、ごく普通の年金生活を送っている方だったり、さまざまです。平凡に見えても、すべての人の人生はドラマチックなんです」。

経歴

静岡市葵区生まれ。一橋大学社会学部卒。1979年、日本テレビ放送網株式会社入社。主にバラエティ番組の演出・プロデューサーを担当。2012年6月、日本テレビ編成局専門局長、同年7月、LIFE VIDEO株式会社代表取締役ディレクター就任(同編成局専門局長兼務)。57歳。「進め!電波少年」ではTプロデューサー・T部長として出演し話題に。「汐留イベント」プロデューサー、岡本太郎「明日の神話」プロジェクトプロデューサー、「間寛平アースマラソン」の総合演出などを担当。
<http://lifevideo.jp/>

すよね。面白いし、素晴らしいと改めて思いました」。

創業者が高齢化し、世代交代時期に入っていることなどもあり、既に160社超分のライブビデオの制作依頼を受けている。

まさに時代のニーズを的確にくみ取る企画力が功を奏した形だが、それ以外にもインターネットの利便性、特性をうまく活用している。「映像コンテンツというのはファイルデータなんです。ネットを積極的に活用することによって時間と手間が飛躍的に省略できるし、最新の技術を駆使して省力化もできるわけです」。

流通開拓へトライを

「地方を見ていて思うのは、地方でしかできない独自性の打ち出し方がうまくない。来てくれた人に対してお土産という感覚でモノをつくらせているだけだと、頭打ちになる。地元の商圏だけじゃなく、例えば2割を海外、2割を県外と考えるとか。やっぱり新しい流通なりにのせるトライはしないといけないでしょうね」。

「レッドオーシャン、ブルーオーシャンという言葉がありますが、LIFE VIDEOは映像の中でのブルーオーシャンなわけです。まだ競争相手がいまありませんから。他の真似ではなく、どっというアピールをしていくのかを見つけないと、地元の商圏は東京から浸食されるだけです」と発想の転換を求める。(文・長田義明、写真提供・LIFE VIDEO(株))